

平成29年第1回三笠市議会定例会

平成29年3月15日（第3日目）

○議事次第（第3号）

- 1 開議宣告
- 2 議 事
- 3 散会宣告

○議事日程

- 日程第1 議案第19号から議案第26号までについて（大綱質問）
日程第2 議案第1号から議案第18号まで、議案第27号及び議案第28号について

○出席議員（9名）

議 長	10番	谷 津 邦 夫 氏	副議長	8番	儀 惣 淳 一 氏
	1番	折 笠 弘 忠 氏		2番	只 野 勝 利 氏
	3番	畠 山 幸 氏		4番	澤 田 益 治 氏
	5番	谷 内 純 哉 氏		6番	武 田 悌 一 氏
	7番	齊 藤 且 氏			

○欠席議員（0名）

○説明員

市 長	西城賢策氏	副 市 長	北山一幸氏
総務福祉部長	右田敏氏	総 務 課 長	池田真志氏
企画財政部長	金子満氏	企画調整課長	中原保氏
政策推進課長	三好智幸氏	税務財政課長	柳谷忍氏
経済建設部長	中沢敏男氏	農 林 課 長	松本裕樹氏
商工観光課長	阿部文靖氏	教 育 長	永田徹氏
教育次長兼高校生レストラン 開設準備室長事務取扱	高森裕司氏	高等学校事務長兼 事 務 係 長	大野彰氏
病院事務局長	澤上弘一氏	総務管理課長	須河恵介氏
医 事 課 長	磯瀬孝氏	消 防 長	阿部英雄氏
監 査 委 員	森原裕氏	監査委員事務局長	中川学氏

○出席事務局職員

議 会 事 務 局 長 小 田 弘 幸 氏 議 会 係 長 坂 保 德 氏

◎開 議 宣 告

◎議長（谷津邦夫氏） おはようございます。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、議事に入ります。

◎日程第1 議案第19号から議案第26号までについて（大綱質問）

◎議長（谷津邦夫氏） 日程の1 大綱質問を昨日に引き続き行います。

通告順に従い、2番只野議員、登壇願います。

（2番只野勝利氏 登壇）

◎2番（只野勝利氏） 平成29年第1回定例会において、日本共産党を代表し質問いたします。

最初に、市政執行方針並びに予算案について、若干の感想を述べさせていただきます。

市政執行方針のかなめとして子育て支援策があると思われまます。給食無料化は、昨今、急速に実施する自治体がふえていますし、国が保育料無料化の拡充を行うなど、三笠市の先駆性が光っています。

一方で、安倍政権は、年金、医療、介護など高齢者に冷たい施策をますます拡大しており、高齢者が多い三笠市では、購買力の減少や一人では暮らしていけないと流出が増大しています。そのことを鑑みれば、悪政の防波堤としての自治体の役割はますます重要になっており、新たな施策がないのは残念なことです。

それでは、通告に基づき質問いたします。

まずは、三笠高校生レストランの問題です。

三笠高校生は、開校以来、さまざまな活躍をし、それは多くの市民に明るい希望をもたらしています。そのような中、平成30年夏オープンを目指し、高校生レストランの建設が始まろうとしています。

そこで、改めて高校生レストランの目的についてお聞かせください。

また、高校生レストランの施設維持費や運営費用の見通し、また高校生レストラン内に設置予定のキッチンスタジオの活用について、あわせてお聞かせください。

次に、食のまちづくりについてお聞きします。

一つ目に、三笠市の特産品の開発についてです。市政執行方針の中で、三笠ならではの特産品開発に取り組んでまいりますとありますが、現状での取り組み、そのことにかかわる地域おこし協力隊の活動、実績、展望についてお聞かせください。

次に、市政執行方針で、三笠高校生レストランを起点とした「食街道づくり」とありますが、どのように展開していくのかお聞かせください。

最後に、市立三笠総合病院についてお聞きします。

昨年実施の市政懇談会において、今年度の通常の繰り出し分に上乗せして4億1,500万円、合わせて8億6,000万円という数字が示されましたが、今定例会で5億1,000万円の補正が出されています。合わせて9億6,000万円ということですから、半年前に試算された数字よりも約1億円の赤字がふえているということになります。その要因と今後の対策についてお聞かせください。

また、今後の病院のあり方について、市政懇談会で示されたのは、3市統合を前提として、建物も含めて現状を維持するというものであったと思われます。縮小案なるものが示されたのも、統合した場合のサテライト化した場合のものでした。検討委員会で最良のものと結論づけられた統合案であったものと思われますが、3市統合以外について検討してこなかったのかどうかお聞かせください。

また、統合についての可能性がなくなりつつある今日、いつまでも固執するのはどうかと思われませんが、そのことについての見解もお聞かせください。

以上、壇上での質問を終わりますので、御答弁のほどよろしくお願いします。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 私のほうから、高校生レストランのまず位置づけということでございます。

これにつきましては、本施設は生徒が調理技術のスキルアップや専門的知識、経営力のさらなる向上を図る、そして食のスペシャリストとしての総合力を身につけさせるための研修施設であり、教育の場というふうに位置づけております。

続きまして、施設維持費や運営費用などの経営見通しということでございますが、収支等についても、やはり重要な視点ではあると考えておりますが、あくまでもこの施設というのは教育施設として、生徒の調理技術のスキルアップということも含めて図っていく研修の場であるということで考えております。そういうことも含めまして、子供たちに研修施設として、私ども提供しまして、運営費用に係る収支等についても、経営能力の向上を含めた能力をしっかりと身につけていただきたいということで、教育の場であることを十分に認識しながらしっかり考えてまいりたいというふうに考えております。

それから、キッチンスタジオの活用についてでございますが、これにつきましては調理・製菓のコンクールや料理教室のほか、調理・製菓の専門学校や近隣高校と連携しながら、地域食材を活用した商品開発を行うなど、三笠高校の生徒が他校との競争や交流を通しまして、調理技術のスキルアップを図る機会となるよう活用を模索しながら、今進めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（中沢敏男氏） 私のほうから、特産品開発について答弁をさせていただきます。

まず、1点目の魅力ある農産物加工品の開発の考え方と取り組み状況ということでございます。農作物の魅力づけということでは、まずブランド化があるということで考えております。農産物の販路拡大、また農業者の所得向上のために、地元農産物の付加価値、また知名度の向上など、差別化を図っていく取り組みが重要ということで考えておりまして、現在、農業団体とも連携をして取り組んできているところということでございます。

また、加工品開発ということで考えますと、地域資源を活用いたしまして、農産物の加工を行うと。このことによりまして、新たな地域の特産品が生まれて、さらなる食と観光振興への可能性が広がっていくものと考えております。

また、市といたしましては、他市の商品と差別化が図れるよう、商品の名称ですとか、地域の独自性、これらなどを発掘して、ブランドコンセプトということで明確化いたしまして、品質の管理基準、また市場、消費者の反応などを調査いたしまして、ブランド化への戦略を確立していきたいということで考えております。

なお、現在の加工品ということで申し上げますと、市内の農業者の方が取り組まれている事例ということで言いますと、ワインの酒造ですとか、ソフトクリーム、リンゴジュースなどがございまして、最近では地域特産品の開発支援を行っております、東京ののれん会というところがございすけれども、こちらのほうの協力をいただいて、メロンチョコレートですとか、メロンジブレなどが商品化、販売されている状況ということでございます。

次にもう一点、地域おこし協力隊の取り組み状況と今後の展望ということのお話です。地域おこし協力隊の農業部門には、現在これまで2名がおります。うち1名につきましては、三笠で農業者を目指したいということで、現在、指導農業士のもとで農業研修を行っている方が1名と。もう1名につきましては、農作業の支援と農産物のPR、加工品の開発、これら農業の振興する事業を行っているということで1名ございます。

地域おこし協力隊が行っております加工品の開発ということで申し上げますと、現段階では、地元の農産物を使いました加工品のアイデア提供というところまででございまして、これまでも別の商品開発で、北海道総合研究機構食品開発研究センターというのが江別市に実はございまして、ここに相談に乗ってもらっているということでございまして、地域おこし協力隊が行う加工品開発、これにおきましても食品加工研究センター、こちらのほうに相談をしながら進めていきたいということで考えております。

以上です。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（金子 満氏） それでは、私のほうから食による観光づくりの食街道づくりについて御答弁申し上げます。

まず、三笠に行けば魅力あるさまざまな食事ができるまちというような、食事自体を目

的としてもらえそうな街道を目指したいというようなことでは考えているところでございまして、その核となるのが高校生レストランでありまして、このレストランの成功が一つの話題性、そういうものになって、今後の食街道に向けました呼び水になるというようなことは考えてございます。そのために、教育委員会はもとより、関係所管含めまして、このレストランの成功に向け努力しなければならないというようなことでは考えてございます。

また、御質問のレストランを起点といたしまして、どう進めていくのかというようなことではございます。一遍に食街道というようなものができるということでは、我々も考えてございませんので、そのきっかけとして、まず本市の食の歴史、役割の重要性を踏まえまして、食によるまちづくり、こういったことを含めた健康につながる食育だとか、そういったような推進を基本に考えていく、きのうもお話ししましたが、食のまちづくり基本条例、これを手がけていきたいと。これに沿った効果的な店舗の配置など、これから模索していきたいというふうに考えてございます。

具体的には言えませんが、市内全域、これを全て食街道とするような考えもありまして、例えば店舗も点在していたものも全てあってもいいというようなこともあります。こういったものも、全てマップ等で一目でわかるような形も含めて紹介するというようなことも考えていけると。民間の店舗が開業しやすい支援策だとか、そういったものも食街道の戦略的なPRも含めて、これから議論していかなければならないのかなというふうには考えてございまして、そのため、食にかかわる事業者を初めとする関係団体の御意見なども聞きながら、この食街道の構想を現実のものに進めていきたいと考えているところでございます。

このように、食にかかわる店舗が三笠に集積することで、雇用の場にもつながっていくだろうし、ひいては三笠高校生も、地元に残ることができるというようなこともつながっていくのかなと。将来的には、その高校生も修行を積んだ後に、自立したいよというお考えを持たれたときにでも、三笠に店を出していただけるような、戻ってこられるようなまちとして、あるいは一般の事業者も含めて、そういったようなまちにしていきたいと。そういったような取り組みも含めて、考えていかなければならないかなというふうに考えてございます。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 病院事務局長。

◎病院事務局長（澤上弘一氏） それでは、病院の関係について、私のほうからお答えをさせていただきますと思います。

まず、市民説明時のときから赤字の分が多くなったのではないかと。1億円というお話もございます。9,700万円程度なのですけれども、考えられる要因としましては、まず人工透析で、これまで通っていた、または入院していた患者さんが亡くなった方が少しちょっと多かったということと、それによって収入が減少したということ、それから予

定していました整形外科医師の退職の補充がなかなかできなかったということ、それから1月に内科医師が1名急死したこと。それから同じく1月に感染性の急性胃腸炎が院内病棟のほうで発生しまして、それによって入院を制限しなくてはならなくなったということ、収入が大きく落ちたということが主な要因と見ております。

その対策についてということなのですが、なかなかやはり例えば整形外科の医師を確保といっても、継続してやってはきているのですけれども、雇えなかったこともありますし、内科の医師が亡くなったこと、また、患者さんを制限しなくてはならなかったこと等について、即効性のある対策というのはなかなかないわけございまして、年度内にできるかという、なかなかそれはできなかったということで、やはりそこで一般会計からも繰り入れをいただいて、解消していきたいということで考えたところでございます。

ただ、そうは言いながらも、今後はその分も含めて、これからまた新年度に入りますけれども、医師の確保ですとか、また、入院患者はやはり大事ですので、回復期病棟、それから透析患者さんを他の病院と連携強化をして、入院患者さんを紹介してもらえるように積極的に働きかけて、赤字の抑制、さらには収入の確保に努めてまいりたいということで考えているところでございます。

また、建物のところで、実は昨年11月に地域振興対策特別委員会で四つのパターンですね、これは縮小案と先ほどおっしゃいましたけれども、縮小案としてお示ししたものではありませんので、もともとは統合を念頭に置いて、その統合したときの規模の病院というのは、検討会のまとめの中にもお示ししておりますけれども、それで一方、本当に今後、必要な最小限の診療科を考えたときに、内科、整形、小児科というところで、これは部長職で考えたわけですけれども、そこに合わせた規模で、例えばベッド数がどうだとか、40床だとか20床だとか、診療所規模、そういった内容で考えたものであります。ですから、そのほかで何か検討しなかったのかということについては、そこまでの段階でとどまっているということでございます。

それと、統合案が消えつつあるというお話がありましたけれども、私どもは消えつつあるとは思っておりません。市長も常に申しておりますように、やっぱり将来的に見れば、国の今の方向とかも鑑みても、あるべき姿なのだろうなというふうには考えております。

ただ、実態として、今、私どもはやはり相手方として考えていた自治体のほうが、言葉は適当かわかりませんが、今、拒まれている状態でありますので、そここのところで直接的には動きが出せない。ですから、やはりここは、今、市長には上京するたびに關係省庁にもいろいろと情報提供していただいたりしておりますし、何らかの動きが今出てくることに我々はちょっと期待しているところなのですけれども、いかんせんそこもなかなか動きがまだ見えないということでございます。

ただ一方で、市政懇談会でもお示しましたように、これから先10年間の見通しとして市からの繰り出しもいただきながら、繰り入れもいただきながらやっていくということなのですけれども、そこで市の財政も5年後には赤字のほうに移行していくのではないかと

という見通しをしております。そこでまた、それまで病院も頑張っただけ抑制していくように取り組んでいきたいとは思いますが、市長がそこで5年後ぐらいにもう一度状況を見て、また考えを新たにしたり継続するなりというようなことお話ししていると思いますので、そういった方向でいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それでは、一つずつ再質問させていただきますが、まず高校生レストランの問題ですが、議会でも、おとし、三重県多気町の相可高校を視察させていただきましたが、そのときの感想としても、これまでも言われていますけれども、現地の高校生がこつこつと実績をつくり上げて、地域住民と一緒に発展させていっているところが第一の印象でした。そういうことから考えると、三笠高校ももう少し時間をかけてと思うところなのですが、実際に来年8月ということになると、そのための準備を進めていくことが必要なのですが、今、「まごころきっちん」と「Cherie（シェリー）」というの、製菓も始まりまして、現在、月2回ぐらい行っているわけなのですが、委員会でも議論しましたけれども、高校生レストランとなると、月で言うと8回以上、長期休みとかも計画されているようですけれども、そういうことで考えると、大変忙しくなるのではないかという懸念があります。

それで現在、「まごころきっちん」あるいは「Cherie」を実施している準備期間というか、大体日曜日に開設するとして、何曜日から何人ぐらいで準備を始めたりしているのでしょうか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 現在は「Cherie」と「まごころきっちん」でございますけれども、今の段階では10人ぐらいで、前日から準備いたしまして、当日の販売に向けて仕込み含めて取り組んでいるという内容でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それで、現在、前日で10人ぐらいと。で、高校生レストランとなるとどのくらい見込んでおりますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 高校生レストランにつきましては、これから準備態勢を各部活のほうでいろいろ対応しておりますけれども、三重県もそうですが、サイクルがあると思いますので、全体で部活動生、製菓と調理で四、五十名いると思います。その中でサイクルをしながら担当を決めて、仕込み等を含めてやっていく流れだと思いますので、そこについては、今、学校のほうで、どういう形が効率的なのか、負担等も含めて十分顧問の先生と協議しているところだと思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） そうしたら、現在は、これからの話だと。準備を進めてという

か、段階的にサイクルというか、そういうのも含めて、これからだんだん準備していくということですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 済みません、申しわけありません。言い方があれでした。

今、実践を想定した中で、仕込みについては、1日で仕込めるもの、それから2日かかるものとか、いろいろございます。そういう中で、時間帯も含めて、物によってかかるものがございます。そういうものも含めまして、今、学校の中で、実践に向けてどういうふうな人数体制でやっていくのがいいかということ、顧問の先生を含めて進めているということで、今そういう議論の中で、来年に向けて取り組んでいるということでございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それは、正直に言って、大丈夫なのですよ。一応確認というか、きちんと開設に向けて順番にやっていくと。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 内容については、問題なく取り組んでいるということで、それに向けて、今、シミュレーションを含めてやっておりますので、オープンに向けてはきちっと対応してやっていけるということでやっています。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） スポーツ分野でも、高校生の部活が過重になって大変な、最初の答弁にあったように、教育施設であるということで、本分はやっぱり学業であり、そこを犠牲にしてはならないということでもありますから、そういったフォロー体制も含めて必要かと思うので、その辺、何か考えていることはありますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 三笠高校に入ってくる生徒は、やはり食のスペシャリストを目指して、目的を持って三笠高校を選んで来ている生徒です。その中で、やはり将来それを目標に目指して、先ほど言った「まごころきっちん」、「Cherie」もそうですが、準備をして、何とか自分たちの技術力を向上させようということで、今、努力しているところでございます。

そういうことで考えれば、やはり負担というよりも期待感、それから目標に向けた、部活動ですので、しっかり取り組みたいというそういう部分が大きいと思います。その中で、今、準備をしながら高校生もレストランのオープンに向けて期待を持って取り組んでいるところでございますので、御理解いただければと思います。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） 高校生の向上心とかモチベーションとか、そういうものは当然あると思います。こういう学校自体がそういう形になっていると思うのですけれども、ただ、それでもやっぱり期待とちょっと違うという話は出てくるかもしれないので、その辺

はしっかりフォローする必要があるのではないかと思います。

次に移らせていただきますが、キッチンスタジアムについて、コンクールまたは商品開発も含めて活動していくのだということですが、まず維持費の問題が出されましたけれども、キッチンスタジアムがあることによって、どのくらいの維持費がかかるのですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 先ほどもお話しした中で、施設自体が教育の場ということでございますので、キッチンスタジアムもやはりコンクールをしながら交流を通して技術力を磨く、スキルアップさせるというような目的でございます。その中で、やはり経営能力というのは大事なことでございますが、そういう中で技術力向上していくということが大きな目的でございますので、その趣旨について、全体の中を含めてそこはしっかり考えていきたいと考えておりますが、今のところはそういう形でしっかり高校生たちに仕入れをして、そして調理、接客、会計までをしっかりとやっていく、そしてコンクールにおいても技術を磨いていただくというような考えの中で、取り組んでいきたいというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） ちょっと質問に答えていただきたいのですが、維持費の関係と、委員会での答弁もあったのですが、当初というか、いつまでかというのわかりませんが、運営していくのにお金が、売り上げで賄えるかというのはちょっと疑問があるというような話もあったと思うので、それに対して、今、答えられているのも、運営費については捻出するというのではなくて、教育の場だから行政が出すのだと。出すのだとか、足りなければ、やっぱりそこに補填するという、そういうことですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 高校生たちが運営していく中で、売り上げとかいろいろな部分があると思います。そういう中で、高校生がしっかりと頑張ってくださいことで、それに対する、当然売り上げとかも出てくると思いますが、その中で、私どもとしては教育の場ということを十分に配慮しまして、生徒に頑張ってくださいと。そういう中で、一定の維持費も含めて、かなりこれからやっていく中で、いろいろなことが想定されますけれども、そういう部分もしっかり研究しながら、厳しい中でもしっかりと維持していけるように頑張っていきたいというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） 要は、だからあれなのですよ、やってみて、やりながら改善もしながら、自分たちの経営の能力とかもスキルアップさせながらということだと思っておりますけれども、でも、教育機関だから潰すわけにはいかない、潰すとか、ということではないということだと思っております。そういうことと言えば、税負担とか、そういうもの

もふえるのではないかと危惧もしますけれども、それで私が疑問なのは、教育の場としてのキッチンスタジアムがちょっとなじむのかなという懸念もあるし、そのキッチンスタジアムがあることによって、維持費用がかさむのではないかと思うから聞いたわけなのですから、その辺何かありますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） コンクール等についても、しっかりこれからいろいろ企業等も含めてPRしながら、各学校も含めてPR活動をしてしっかり開催して、生徒たちがそういう技術力向上だとかを含めて取り組んでいけるように、それからその中でも、あと料理教室も含めてしっかり一定の開催が経営的に可能な部分も含めまして、取り組んでいければというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） コンクール自体も必要なのかという、高校生の料理に関するコンクールは、全国でもあらゆるところでというか、いろいろなところで行われているのですよね。委員会の議論の中でも、スポンサーを探してということもありましたし、市が主催してということも考えとしてあるということもありましたけれども、そこまでして必要なのかなと思ったりもするのです。いろいろなコンクールに参加されて、実績も上げていますけれども、フランチャイズの、優勝して当然という環境で、どうなのかなと思ったりもしますし、そういう意味で、料理教室についても、既存の高校の施設の活用で十分ではないかと思ったりもするものですから、その辺についても懸念しているところです。

それで、最初に申しましたけれども、相可高校の例を見ても、やっぱりいろいろな意味で市民と一体となってというか、市民への説明ということも、今後、こういうことも含めて必要ではないかと。市民に理解してもらって、それで高校生レストラン、市民と一体となって、親戚をお客さんと呼ぶとか、そういうことも含めて必要だと思うのです。その辺の取り組みについては、どうですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 教育次長。

◎教育次長（高森裕司氏） 今、市民と一体となってということでございますが、これにつきましては、まず研修施設として、やはり生徒からいろいろな意見を今回のレストランの開設に当たって聞いてございます。そのほか、市民の意見として、連合町内会を含めて各団体の方、それから教育関係者を含めまして意見を聞いた中で、今、取り進めております。

それと、各議員の皆様にも、委員会等でも御意見した中で進めているという中で、この意見も踏まえて、今後、市民の皆様とさらに理解していただきながら準備を進めていければなというふうに考えております。

それと、「まごころきっちゃん」とか「Cherie」についても、生徒の一生懸命な活動が市民に好印象を与えております。こういう面では応援体制、協力体制も広がっているというふうに受けとめておりますので、レストランがオープンするまで市民全体の機運が

高まるように、私どももPR活動を含めてしっかり進んでまいりたいというふうに考えています。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それで、今、理解してもらうようにと。では、理解してもらうために、どうするのですか。何か具体的に考えていることはあるのですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 副市長。

◎副市長（北山一幸氏） 大変申しわけないのですけれども、私のほうから少し補足させていただきたいと存じます。

このレストランについては、当初、教育委員会もお話したとおり、学校の研修施設ということで、学校施設という位置づけをさせていただいております。今の経営の関係で、維持管理を含めての全体のお話だと思うのですが、当然そこで調理して売る食材等々を仕入れて、そして販売して、利益はどうなるかということについては、当然光熱水費等々含めて運営を勉強していただくところだというふうに考えております。

ただ、大きな意味で、学校施設ということなものですから、そのレストラン自体の大きな修繕だとか、そういうものは、やはりこれは行政のほうで、しっかりとバックアップしていかなければならない部分なのだろうというふうに私どもは捉えてございまして、そこはこれからもしっかりと取り組んでいこうと思っております。

それと、あと今のキッチンスタジオのことなのですが、これについても、今のレストランの中で培った技術なりなんなりが、すぐ就職だとかいろいろなことにつながってくるものと考えております。そうすることによりまして、学校の生徒確保、それから就職、それらいろいろな面で学校のPRとなって、学校の運営に寄与されるものということを期待してございまして、これらも含めて、今後、ですから運営費については、維持管理費等々につきましては、ある程度生徒がやる部分はいいのですが、それ以外の部分については、行政もしっかりと応援していかなければならないのだろうというふうに思っております。

それからもう一つ、三重県の相可高校のように、大きな背景に人口を抱えている場所と北海道はちょっと違うものですから、あのようによくのお客さんが来るかどうかというのは、私どもも、今、不安に思っております。そこはそうなのですが、ですから全てが学校の子供たちの運営だけで賄いきれるかということ、それはまた違うのだろうというふうに考えておりますので、その辺はしっかりと見きわめながら、学校と連携をとりながらやっ
てまいりたいというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） 今、集客への不安のことも、後で食街道のところでも聞こうかとも思っていますけれども、北海道というのは、そもそも食の宝庫で、あちこちで食に関する取り組みが行われて、食べるものとかそういうものも魅力ある。だから、先ほどの答弁で差別化という話もあったと思いますけれども、三笠ならではのものということが必要ですし、やっぱり決め手となるのは味かなと思ったりもします。そういう意味で、ある程度時

間がかかるのかなと思ったりします。

そういうことで、次に移らせていただきますが、特産物の話なのですけれども、きのうの議論でもありましたけれども、今、頑張っている農家の皆さんが、生産物に対して付加価値をつけてやる気を引き出すというか、所得の分でも保障されるようなことが、取り組みが必要だと思います、ブランド化ということで。

ただ同時に、後の話にもつながるのですけれども、食によるまちづくりということであれば、商品開発とともに、それに係る雇用も生み出していくようなことも、展望としてなければいけないのではないかと思うのですけれども、その辺についてはどう考えていますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（中沢敏男氏） 食に絡んで、今後の雇用ということで、そのとおりだと思います。まずは、やはりブランド化といいますか、売れるものをしっかりつくっていくと。それが売れることによって、市内の経済といいますか、雇用も生まれて循環していくのだろうというふうに思っておりますので、やはりそのところはしっかり取り組んでやっていきたいというふうには思っております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それで、答弁の中で地域おこし協力隊の動きがあったのですけれども、3年という枠ですから、まだ2年ぐらい残っている。そろそろ実績ということを求めていく時期であるし、期間が終わった後の、希望としてはどうやって三笠に残ってもらうとか、そういうことが必要かと思うのですけれども、できれば商品開発をして、販売も含めて、そういう形でと思いますけれども、その辺については何かお考えはありますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（中沢敏男氏） 今、早く実績というお話をいただきまして、確かに早く成果といいますか、出ればいいかなと思いますけれども、やはりなかなかいろいろ相談しながらやりとりをやっていくということで、簡単にこういかないのかなと、やっぱりちょっと時間がかかるのかなというふうには思っております。

地域おこし協力隊の、先ほど議員のほうからもお話ありましたけれども、今、1年目ということで、基本的に任期が3年ございますので、あと2年あります。最初から、地域おこし協力隊の方には、ぜひ三笠に残っていただきたいという思いもあって、活動していただいているということでございます。

例えば、3年後に残っていただいて、起業化するということになりましたと、今現在、国のほうの制度で、その起業化に対する支援というのが100万円が出るということがございまして、ぜひこの辺を使って三笠のほうに残っていただければというふうに思っておりますし、また、あわせて、三笠市の商工業活性化事業やる気応援補助金というようなものがございまして、ここの中にも起業化支援ということで、三笠のほうで、例え

ば後継者として残るですとか、新たな店舗で残るですとか、そういうことに対して支援の制度を設けているということで、ぜひ、地域おこし協力隊の方には、今後とも残って活躍していただきたいというふうに思っております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） ぜひ2年後に残ってもらうということで取り組みを強めて、支援も含めて頑張っていたいただきたいと思います。

それで次に、食街道のことについてお聞きしますが、まず、あちこちばらばらでいいのだと、いろいろなお店がという話もありましたけれども、三笠のよく観光で言われるのが、あちこちばらばらで、これではうまくないのではないかということも言われているわけなのですけれども、そういうことについてはどうですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（金子 満氏） 店舗の位置的なもの、街道といいますから、普通であればつながっているというようなものが一番ベストなのかなと思います。ただ、現実に営業しておられるお店屋さんもあるわけで、そういったものも含めて、街道の一部というような思いであります。そういったことから、全体的にどこが一番いいのだというようなことは、これからちょっと考えていきたいのですけれども、言ってみれば、思いとしては、ある程度近場に、そういったものがあるような形をとればいいのかということでは考えてございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） 今、いろいろなところでファームレストランとか、カフェとか、空き家を改装してとか、そういう話もいろいろ出てきています。そういうことが三笠でも起これば、そういった何というか、先ほど支援策も含めて考えたいということでもありますけれども、三笠に来てもらうようなこととか、そういうことでは何か考えていらっしゃいますか。さっきの基本条例自体がそうなのかもしれません、お願いします。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（金子 満氏） そうですね。来てもらうのに、来やすい制度等も今後考えていかなければならないなというふうには考えてございます。

ただ、具体的にはどういった支援にするかというのは、これからなのですけれども、例えば店舗を出すのに、元気支援みたいに一定の助成をするだとか、そういったことも考えながら、それをやるというわけではなくて、店舗をこちらでお探しするなり、改造しやすいお店だとかを御提供するなり、そういった情報提供だとか、そういったものも含めて発信していきたいというふうには考えてございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それとともに、答弁でもありましたけれども、既存の店舗が、例えば改装してきれいにしたりとか、メニュー開発とか、宣伝とかも含めて、そういった支援策とかも必要かと思うのですけれども、その辺はどうでしょう。

◎議長（谷津邦夫氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（金子 満氏） そのとおりでございます。その辺のPR等を含めて考えるべきだと思っております。

以上です。

◎議長（谷津邦夫氏） 経済建設部長。

◎経済建設部長（中沢敏男氏） 先ほどもちょっと申しましたけれども、今の商工業活性化事業やる気応援補助金の中で、店舗の改装ですとか、そのところの制度は、今現在進めているということでございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それでは、時間もあれなので、病院について移らせていただきます。

まず、きのうの議論でもありましたが、ベッド、例えば100%の稼働でも赤字なのだということでしたが、根本的には診療報酬体系がそういうことになってきて、自治体病院のほとんどがやっぱりそういうことで赤字になっているということだと思います。今後も、国は、医療・介護を一体化するというので、病院から患者さんを追い出すという方向で動いていますので、ますます厳しくなるのか、療養病棟の廃止とか、そういうことから言われていることだと思います。

ですので、なかなか厳しい状態なのは確かです。それで、ある程度財政的な支援というのは本当に必要ですし、市民も病院にお金を使うならということになって納得していると思います。ただ、将来の展望については、やっぱりもう少し議論が必要かなと思います。

それで、まず、赤字の増大の要因について4点ほどありましたが、認識としてお聞きしたいのですけれども、他の民間の医療機関に受診する方というか、その影響とかは、どう考えられているのですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 病院事務局長。

◎病院事務局長（澤上弘一氏） 民間といいますか、いわゆるいつも取り上げられております、市外に流れていく患者さんというところでは、やはり国保ベースでも60%ぐらいという数字もありますので、少なからずともそういった影響というものはあるのかなというふうに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それは前からそうだということで、最近というか、近ごろ、三笠にも一応民間の診療所ができて、ここでもいろいろ話題になっていましたけれども、送り迎えのところ、他市町へということも、昨今ですよ、去年あたりから始まった。そういう影響というのは何か認識ありますか。

◎議長（谷津邦夫氏） 病院事務局長。

◎病院事務局長（澤上弘一氏） 市内にもクリニックさんが進出してきたりということもございますけれども、その影響が直接的にあるかということ、さほどないかなというふうな

認識しております。

ただ、非常に評判もいいというお話も聞いておりますし、逆に言うと、そちらに通っていて、最終的に私どものほうの整形に通ったりという患者さんもいらっしゃるという実態も把握しておりますので、そこに大きく引っ張られているというようなことはないのかなと。

あと、市外からの患者さんを運んでいくというような、つい先日、2日ほど前に、私、直接的にその車も目にしたのですけれども、やはりそういった影響というのはあるのだろうなというふうには思っております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） 何か患者を奪い取るようなこと自体が、ちょっとどうなのかと思えますけれども、ただ一方で、印象として親身な送り迎えしてくれるしということもあるのかなと思います。

それで、親身な医療ということ言えば、きのう、サービス向上委員会、仮称ということでお話がありましたけれども、ちょっと確認ですけれども、市政懇談会の中で市長がいろいろな苦情とか問題も含めて、そういうことについて、何か検討していくところを立ち上げたいというようなこともお話があったと思うのですが、その具体化ということで捉えてよろしいのでしょうか。

◎議長（谷津邦夫氏） 病院事務局長。

◎病院事務局長（澤上弘一氏） 苦情処理のシステムに関しましてはまた別に、今、私も院内のほうに投書箱を置いておりますけれども、それは院内だけで処理しております。

それで、そこを行政部局のほうにも、例えば内容によっては合議するとか、その処理の仕方を変えていこうということも、今、考えておりますし、議員がおっしゃるように、サービス向上委員会なるものの中身はまだこれからなのですけれども、そこでひとつそういったものも取り扱うということも考えなければならないかなというふうにも考えているところでございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） きのうの中で、新患者さんの窓口、それはどういうものなのでしょう。

◎議長（谷津邦夫氏） 医事課長。

◎医事課長（磯瀬 孝氏） 現在、内科であれば二窓口、もしくは三つの窓口で診療を行っております。それは今までは全て朝8時30分から予約患者さんがずっと入っているという状況なのですが、その予約患者さんが全て埋まっていますと、新患の患者さんが来たときに、その予約が終わるまで入ることができないということですので、それで30分に1回の枠で、必ず1人は新患を受け入れるという、そういう枠をあらかじめとっておくことによりまして、全員が終わる前に、30分の間に必ず1人新患が入れるというようなシステムを設けていきたいなど、そういうようなことで新患枠を設けていきたいというふ

うに考えております。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） そういう苦情というか、あったからかなと思いますけれども、新患の予約をしないまま来てしまった患者が追い返されるというか、何かそういうような事態を起こさないようにということで、ただ、余り宣伝ではないけれども、すると予約しないで行ってしまうということもあるのかなということも思ったりもするのですが、その辺はどうなのでしょう。信頼してやるしかないのですか。

◎議長（谷津邦夫氏） 医事課長。

◎医事課長（磯瀬 孝氏） 今までそういうふうに、朝8時半に来ましても、2時間とか待つパターンがあったものですので、それをやはり30分以内で解消しようというのが基本的な考え方ですが、ただ、それが何人も新患が来られるとということがございますが、実情、患者さんも若干減ってきている傾向に外来もなっておりますので、あいたところにはもちろん入れていくということなのですけれども、基本的に新患枠を設けて、必ず待ち時間の短縮を図っていこうというようなことで、スムーズに新患の人が何時間も待つことというものの解消を図ってまいろうと、そのような考え方で、今回設けるような考え方でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） それと、赤字の要因としてドクターの確保、整形ということで、きのうも整形医師確保の予算がないではないかという話もありましたけれども、12月議会でもお話ししたのですが、回復期リハビリ棟で、整形の患者を受け入れられない、常勤医師がないからということも何か答弁があったのですが、やはりそれを考えると、整形の医師確保というのは、当然頑張っていってほしいと思いますが、やっぱり必要なことかなと思います。それで、頑張りたいということで、あれなのですけれども。

それで、新しく病院建設の話がありましたが、市政懇談会でも、やはり前提としているのは3市統合というか、統合案をベースに先ほどお話があったように、サテライト化というか、大病院に附属して、小さいというか、その病院というか、あるいは診療所とかをつくっていかうと。そういうことでの縮小案ということでしたけれども、今後やっぱり5年後改めて検討するといいますけれども、やっぱり市民が求める病院のあり方、12月議会的时候、市民は高度な医療を求めているという話もしましたが、市民が求めている診療科、ベッド数とかも含めて、その建物も含めて、建物を新しくすれば患者がふえるという理屈もあったり、スタッフがふえるという話もあったりしますので、その辺についてもやっぱり検討していく必要があるのではないかと思いますけれども、その辺についてはどうでしょうか。

◎議長（谷津邦夫氏） 病院事務局長。

◎病院事務局長（澤上弘一氏） 昨日の質疑の中でも若干ふれたと思うのですが、今これからお示しする予定の新公立病院改革プランとはまた別に、やはりそういったことも検討

を始めていく必要があるのかなというふうには感じております。

それで、先ほどの統合のところでの、私の答弁にちょっと補足をさせていただきたいと思うのですが、いわゆる今後10年の見込みというところで、財政的にもこういった状況が可能だということで見込みを示させていただきました。

ただ、それは当面そういうふうにやっていきたいということなのですが、そこで問題になるのは、財政的にそれが可能だとなっても、最たる医療資源である医師がいなければ継続できないのですね。27年の統合案をまとめたときに、もともと、私ども、外科は北大、内科は札医大ですけれども、特に教授のほうから、医師引き揚げのことも言われていたわけです。そのときに、こういう案をつくりました、お持ちしましたということで説明に伺ったときに、これがあれば理解できるなど。三笠市さんがそういうふうな考えを持っているということが理解できれば、まずは引き揚げについてはちょっと猶予をいただけるようなことでした。

ですから、一方では上げた旗をなかなかおろさないというのも、そこにも一つ要因があるということがございます。私ども療養病棟もありますけれども、療養病棟を開設したときにも、本来は療養病棟の専属の主治医というのが必要なのですけれども、なかなか医師が見つからないものですから、既存のいらした内科の先生なり外科の先生に分担して、そのまま診てもらっているわけですね。ですから、大学からすると、急性期の患者をもう診ていないのだろうと、こうなるわけです。慢性期の患者はもう1年も継続して入院しているような患者を診ているのであれば、私どもの役目はもう要らないですねと、もう終わったのですねと、こうなってしまうのですね。

そこを何とかこの統合案を示しながら、実現できるかどうかというのは、本当にまだわからないわけですが、それをも一つの医師派遣の引き揚げに歯どめをかけるというようなことも、狙いとしてあるということ、御承知おきいただければなというふうにも思います。

以上でございます。

◎議長（谷津邦夫氏） 只野議員。

◎2番（只野勝利氏） 医師引き揚げは本当に深刻な問題で、最新の病院でも、きょう道新に、札幌の市立病院のお話が載っていましたが、いつやっぱり引き揚げがあるかわからないです。少なくとも起こらないように取り組んでいるということだと理解しますけれども、ただ、実際は本当にいつそういうことが起こるかわからないし、市の試算で見ても、半年前の試算、何かあったらやっぱりそういう状況というか、赤字が莫大にふえるとか、そういうことが起こり得るといいます。医師がいなくなったら、これあれですから、6月もさらに補正というか、1月に亡くなった先生の分も含めてですけれども、あるのではないかと思いますけれども、そういうことを考えたらどうなのかなということもやはりあるものですから、今後とも議論していきたいと思っております。

質問を終わります。

◎議長（谷津邦夫氏） 市長。

◎市長（西城賢策氏） たくさん御提議いただきまして、本当にありがとうございます。

私なりの所見を申し上げたいと思います。

まず、高校生レストランのことについては、何かどこかみ合っていないのかなというふうにちょっと思った部分がありますが、基本的には高校生レストランをオープンしようと思えば、私どもも、もっともっと早くやりたいというふうな気持ちはあったわけです。しかし、あれはあくまで教育の場だということで、生徒がしっかりそういう環境づくりをぜひやってくれ、あるいは高校がぜひやってくれという環境ができなかったら、そんなことはできるわけがないよということで、僕らはずっと辛抱してきたというのが実態で、ここに来て、昨年あたりから、高校がぜひそういう計画をしてくれないかと。

つまり、やはりここで、ある意味、高校生ですから、みんな横一線で何となく温かいぬるま湯の中で勉強して社会に出ていく。社会に出ていくと、さあ、お前あれやれ、これやれ、それやれで大変な思いを子供たちがしなくてはならない。そういうものを、高校の時点で何か実践としてさせられないのだろうかというのが、学校の先生のお話でございます。

私どもとしても、少しでもそこで、将来自分がオープンしたら、どんな環境になるのだろうかというのが、少しでもいいから体験をさせて、そして世に出していこう。そして、いずれそういう子供たちが、このまちに帰ってきてくれたらありがたいなと、そういう少しでも技術力を磨いた生徒を、社会に輩出していくという努力をしなくてはならないということで、高校生レストランをぜひやろうではないかということです。

何かともすれば、地域振興のために高校生レストランをやるんだと、それは結果であって、その以前に、まずやっぱり教育の場だと、それが大前提だと、これは教育委員会もしっかり認識しておりますし、それから機運というのは、自然にできてくるものもあるけれども、つくっていくということでもあるわけです。だから、そういう高校生レストランをそろそろという雰囲気皆さんのほうに出てきて、私どもとしても、ではやってみたいなというような環境もあって、今日を迎えていると、こういうふうに理解していただかなければならないだろうなどのことで、先ほどの御質問の中では、少しその辺の何か行き違いがあるのかなというような感じもちょっといたしましたので、あえて申し上げました。

それから、副市長がさっき申し上げた中で、不安という言葉を使ったのですが、これは私ども、どんなことをやるのでも不安はあります、はっきり申し上げて。そういう意味です、彼が言っているのは。つまり、これは高校をやるときも、そうでした。たくさんの御指摘をいただくのです。皆さんもやっぱり不安をおっしゃるのだろうと思います。これは、賛成とか反対とかいう域を超えているのは不安なのですよね。それは当然あるのだと思います。だから、そのことのみ込んで、我々は、しかしやっぱり責任を持って物を進めていくということで、我々は批判する立場ではありませんから、やはり実践者としては、一つ一つそのことはよく考えた中で、しかし余り過大にならない範囲で、しっかり物

事をつくり上げていかなければならないということです。

当然のことながら、失敗すればその責任はとらなければならないというふうに思っておりますし、そういう意味では、私どもとしては、高校のことについては一定の成果を上げつつあるというふうに思っていますので、今後、高校生レストランに関しても、100%自信を持っていないという意味で彼も言っているのですが、100%そうだとはい誰も言えないのだろうと思いますし、そこにチャレンジしていく気持ちも、多くの市民の期待を背に受けて、努力をしていかなければならないのだろうなというふうに考えているところでございます。

それから、食による観光づくりというところですが、これはいつも申し上げているように、大量な資金があって、圧倒的な規模で何かをつくれれば、これはある程度人が来てくれる。いわゆるいつも言うように、ディズニーランド、それからUSJみたいなものだと思いますけれども、そのようなものが北海道で実現するなんていうことはほとんど考えられないし、我々もそう全く思っていますし、だとすれば、やはり学ぶというところに視点を置いた、何かそういう観光開発みたいなものがないかというのが、私どもがずっと考えてきたことです。

その一つが、ちょうどこの高校生レストランもオープンできるという環境が、今でき上がりつつありますし、これをひとつ大きく生かして取り組んでいきたいということでありまして、そこで地域おこし協力隊のことが、先ほど議論がありましたけれども、3年といっても、簡単に特産品開発が、きょう考えてあしたできますというものではもちろんないので、私はこの地域おこし協力隊というのは、むしろそのことを通じて三笠の空気を知っていただいて、三笠を体感していただいて、しかもその後、三笠に残っていただくと、そういう方々が、そういう環境づくりをしていかなければならないのだろうなというふうに考えているし、まさに部長が申し上げたのは、そういうことでもあります。

そのために、今、食の基本条例をつくるのも、食の基本条例はやっぱりある意味どこか精神論の部分があって、一定の支援をしていくことも考えるというような規定になると思いますけれども、その後、昨日の答弁にあったと思いますが、計画づくりをしなくてはならないです。その計画づくりの中で、具体的にこんなことあんなことを制度化していったら、支援をしていきたいと。それは恐らく三笠高校の卒業生だけではないと思います。いろいろな方々が、このまちで食ということについてトライしてみたいという方がおられたら、そういう方々にも何らかの支援ができるように考えていきたいというふうに思っておりますし、そんな進めがしていくことができればいいなど。それが最終的にどのくらいの時間がかかるかはわからないけれども、最終的に食街道づくりにつながっていくのではないかと考えているところでございます。

桂沢開発の中で、桂沢にも一定のものを私は位置づけたいと思っているわけです。その位置づけるものがどんなものであればいいか。きのうも申し上げたように、コンセプトをしっかりとしたものをつくらなければならないなど。それがトータルの中で、それが道の駅

になるのかどうなのか、または道の駅なんて幾つも同一市内に認めていただけるのかどうかというようなことも当然ありますし、そんなこともしながら、でも今せっかくダム事業が起きてくるのだから、このダム事業によって、ダム湖周辺開発事業の中で何とかいいものを創生できないかというふうに、今、考えているということですので、ぜひ進めてまいりたいと思います。

それから、病院のことですけれども、私が市政懇談会の中で申し上げたのもシステムづくりが大事だと、こういうふうに表現したと思います。やはり苦情があります。これをよく検討して、いい病院をつくっていきたいと思います、このようなことを言うのは簡単だと思いますけれども、それはシステムがないとそういえないわけですね。だからそういうシステムづくりをしてくれと。今のサービス向上委員会も、局長のほうでも申し上げておりますけれども、まさにその一つだと思いますが、それにさらに発展させていい処理の仕方を考えていってほしいというふうに、私のほうから申し上げているところです。

それから、市政懇談会で申し上げて、5年というふうに、市民の皆様に一応の御了解をいただいたと私は理解しておりますけれども、しかし5年をかけて、5年間は何もしないのだという意味ではありませんから、5年間も一生懸命いろいろなことを考えていながら、先ほどお話のあった、従来からあった統合案ですね、これは部長たちがいろいろ考えてくれたことですが、私はいまだに決して悪いものとは思っておりませんし、統合できるのなら統合したらいいのではないかと。

いつでも言っているのは、統合は各自自治体病院の、地方の公立病院が歩いていく道だろうなど、そういうことを申し上げているわけです。ですから、いずれ日本中で、そういう再編が起きる。そういう手法の中で、今だって一定の起債枠の拡大とか、そういうものが統合した場合は、これだけしますよとかというのがあるわけですから、そういうものを活用しながらやっていけば、地方の公立病院がメイン病院をつくりながら、先ほどお話もあったサテライトその他いろいろ考えていくという手法もあると。しかし、どこかでそれにかわるような大きな病院ができて、これと連携できるのだったら、またそれはそれで一つの手法なんだろうと思っております。

だから、どんな案がいいのだというのは、簡単に言えることではないだろうと。いろいろなことが、その時代時代に合わせて、判断していかなければならない部分だろうなどというふうに思っております。

それから、整形の医師はどこかで、私は諦めているわけでもありませんし、何としても病院経営でやはり入院患者を多くして、そして収益を上げていくには、整形の医師が非常に大事だと、いつも局長から言われておりました、私もできる限り、私を動かしてくれないかと局長にいつもお願いしております。私自身はどこでも行くからと。もう医師の確保に関しては、別に整形に限らずどこでも行くけれども、特に整形が今大事なのだといえれば、これからも一生懸命頑張っていくということを申し上げておりますので、そんな形でこれからもトライしていきたいと思っておりますので、ぜひぜひ議員の皆さんの御協力と御理解

をいただきたいと思ひます。

よろしくお願ひ申し上げます。

◎議長（谷津邦夫氏） 以上で、只野議員の質問を終わります。

これをもちまして、市政執行方針及び教育行政執行方針並びに議案第19号から議案第26号までについて、通告のあった質問は全て終了しました。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第19号から議案第26号までについては、8人の委員をもって構成する特別委員会を設置し、付託の上、審査することにしたと思ひます。御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

◎議長（谷津邦夫氏） 御異議なしと認めます。

議案第19号から議案第26号までについては、8人の委員をもって構成する特別委員会を設置し、付託の上、審査することに決定しました。

続いて、お諮りします。

ただいま設置されました特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条の規定により、配付した一覧表のとおり8人を指名したいと思ひます。御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

◎議長（谷津邦夫氏） 御異議なしと認めます。

ただいま指名しました8人の委員を特別委員会委員に選任することに決定しました。

◎日程第2 議案第1号から議案第18号まで、議案第27号 及び議案第28号について

◎議長（谷津邦夫氏） 日程の2 議案第1号から議案第18号まで、議案第27号及び議案第28号についてを一括議題とします。

前回の議事を継続し、直ちに質疑を行います。

議案第1号から議案第18号まで、議案第27号及び議案第28号について、一括して質疑を受けます。

（「なし」の声あり）

◎議長（谷津邦夫氏） 質疑ないようですから、議案第1号から議案第18号まで、議案第27号及び議案第28号についての質疑を終了します。

お諮りします。

ただいま議題となっております議案第1号から議案第18号まで、議案第27号及び議案第28号については、さきに設置した8人の委員をもって構成する特別委員会に付託し、審査することにしたと思ひます。御異議ございませんか。

（「なし」の声あり）

◎議長（谷津邦夫氏） 御異議なしと認めます。

議案第1号から議案第18号まで、議案第27号及び議案第28号については、8人の委員をもって構成する特別委員会に付託し、審査することに決定しました。

◎休 会 の 議 決

◎議長（谷津邦夫氏） 休会についてお諮りします。

議事の都合により、明日3月16日から3月23日までの8日間、休会したいと思います。御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

◎議長（谷津邦夫氏） 御異議なしと認めます。

3月16日から3月23日までの8日間、休会することに決定しました。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

◎散 会 宣 告

◎議長（谷津邦夫氏） 本日は、これもちまして散会いたします。

御苦労さまでした。

散会 午前11時14分

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

平成 年 月 日

議 長

署名議員

署名議員